

2022～2025年度「深田賞」受賞者一覧 (所属は受賞時のものです)

| 2025年度 受賞者 | 所属等 | 顕彰理由 | 詳細PDF |
|------------|-----------------------|---|---------------------|
| 今村遼平 | アジア航測株式会社 | 地形・地質技術者として、写真地質学による地形判読技術の土砂災害への応用や普及、地形工学の空間情報の実用化、またハザードマップの基礎の確立などに大きく貢献した。多くの学協会の委員・委員長を歴任し、また大学・大学校で教鞭をとると共に、多岐にわたる著書を通して次世代の地質技術者の養成と技術者倫理の啓発、そして一般市民の防災意識の向上を推し進めた。 | PDF |
| 上野将司 | 応用地質株式会社 | 現場における多角的な情報収集に基づき、岩盤崩落や斜面崩壊などの災害対応、地すべり対策等に多数携わり、斜面防災分野において多くの貢献と業績を挙げた。これらの知見は斜面災害対策の指針・基準に盛り込まれ、斜面防災に関してまとめた技術書は、技術継承や次世代技術者の育成に貢献している。斜面災害や道路防災に関する委員会委員も多数務め、また一般市民の防災意識の啓発も積極的に推し進めた。 | PDF |
| 2024年度 受賞者 | 所属等 | 顕彰理由 | 詳細PDF |
| 奥園誠之 | 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社 | 地質技術者として、数多くの「高速道路建設」における道路土工分野の調査・解析・設計・施工・品質管理などの技術の確立と要領化に大きく貢献した。また、大学の理学・工学の分野で教鞭をとり、土質工学に応用地質学の基礎を組み込んだ講義を通じて多くの後進を育成した。さらに、地盤工学会、日本応用地質学会、土木学会など学会を横断して多くの役職を務めるとともに、運営にも尽力してきた。 | PDF |
| 井上公夫 | 一般財団法人砂防フロンティア整備推進機構 | 日本各地において歴史時代から終戦直後までに発生した代表的な土砂災害の多面的な調査・分析を粘り強く続け、災害の発生要因や時系列ごとの経緯など災害の全体像を解明し、数多くの著作にとりまとめてきた。また、インターネットを通じた情報発信、現地見学会を精力的に行い、災害に関する啓発活動を分野横断的に推し進めた。 | PDF |
| 2023年度 受賞者 | 所属等 | 顕彰理由 | 詳細PDF |
| 大島 洋志 | 国際航業株式会社 | 地質技術者として、鉄道をはじめとして多様なトンネル建設の路線選定・設計・施工において技術開発と問題解決を図り、地質学の有用性を確固たるものとした。また、多くの学協会運営に尽力するとともに、学術団体や技術協会等における多数の講習会講師を務め、地質技術の普及・継承に大きく貢献した。さらに、大学の非常勤講師を通じて、学生の視野を広げ、また次世代の地質技術者を育成した。 | PDF |

2022～2025年度「深田賞」受賞者一覧 (所属は受賞時のものです)

| 2022年度 受賞者 | 所属等 | 顕彰理由 | 詳細PDF |
|------------|------------|---|---------------------|
| 杉村 新 | 元神戸大学理学部教授 | プレートテクトニクスの黎明期に、広い視点から応用地質学を含む地球科学に新しい世界を切り開き、多くの著作によって数多くの人に新しい息吹を与え、次世代の育成に大きく貢献した。 | PDF |
| 岩松 暉 | 鹿児島大学名誉教授 | 土木や環境に関連する応用地質学黎明期において、その教育・研究を牽引し、地質学が社会にとって有用であることを学界や関連分野に広く認識せしめ、地質情報の公開とジオパーク構想の実現に尽力した。 | PDF |